

「岩手県理学療法学」に4論文同時掲載されました！

令和3年度「岩手理学療法学」に当院北上済生会病院リハビリテーション科から、なんと4論文が同時掲載されました！

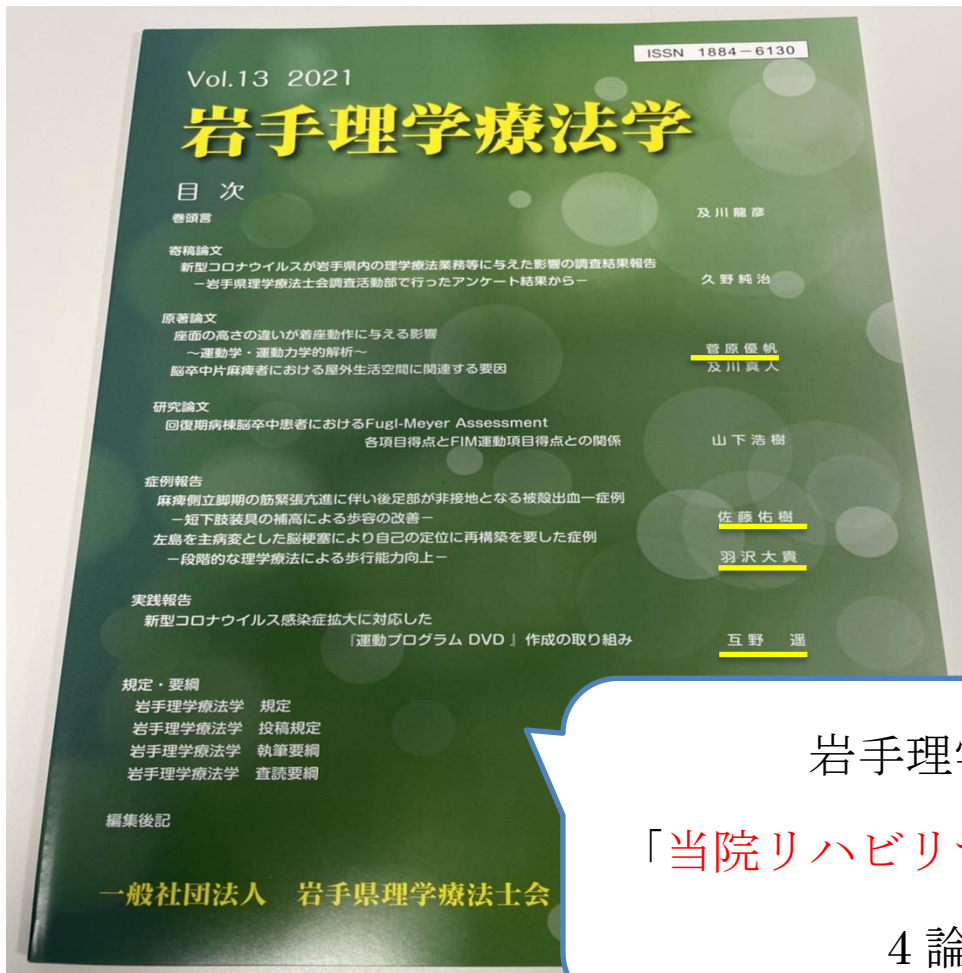
この「岩手理学療法学」は、一般社団法人岩手県理学療法士会が企画・発行する学術誌で、岩手県理学療法士会会員（岩手県の理学療法士）に年に一度発行される専門誌です。今回は研究論文1本、（筆者：菅原優帆）、症例報告2本（羽沢大貴、佐藤佑樹）、実践報告1本（互野遥）の合計4論文で、基礎研究としての科学・臨床推論としての臨床実践・チームとしての取り組み実績を、バランスよく発信致しました。

当院は、特筆すべき研究機器があるわけでもなければ、研究ノウハウに長けたスタッフが在籍するわけでもございません。それでも岩手県理学療法士会会員（岩手県の理学療法士）の皆様、少しでも有益な情報が共有できればという決死の覚悟で、執筆メンバー一同、夜な夜な慣れない論文執筆に励みました。

また、昨今のリハビリテーション医療の情勢は、新型コロナウイルス感染症への感染対策や働き方改革による勤務時間の認識の見直しなどで、どの医療機関も一般業務（臨床業務）をこなすのでいっぱい、という状況にあるかと推察します。そんな社会情勢の最中にはありますが、当院リハビリテーション科では「臨床・教育・研究」という医療専門職の礎ともいえる3本柱の実践を、いかなる環境下においても組織単位で取り組んでいる、という社会への証明になれば幸いかと思い、論文同時投稿を試みた次第です（論文執筆活動は、臨床・教育・研究の要素のうち、主に教育と研究分野への貢献として位置づけられます）。この経験を活かし、今後は東北ブロック雑誌や全国紙にも当院一同チャレンジしたいと思います。

「すべては患者さんの笑顔のために！」。

これが、北上済生会病院リハビリテーション科の行動理念です。 菅原優帆



岩手理学療法学に
「当院リハビリテーション科」から
4 論文投稿



岩手理学療法学に論文投稿したリハビリテーション科スタッフ
左から羽沢大貴、菅原優帆、互野遥、佐藤佑樹